



上/竹林だった土地を開墾し、松本さんが植えたという約200本の桜の木には蕾が膨らんでいました
左/昭子さんが撮影した、オランダの旅の風景写真
下/桜の山を案内してくれた松本さん



梅から桃へと季節を映してきた花景色。これから心待ちにするのは、満開の桜です。
上陳地区に暮らす松本博美さんは10年前、自宅近くの上陳城跡とされる竹林を購入し、自ら開墾した1ヘクタールほどの土地に約200本の桜の苗木を植えました。春になると、しだれ、ヨウコウ、ソメイヨシノと咲き誇る花景色が、見る人の心を潤しています。
「桜は花の王者。国内の桜の名所

を巡った中で、福島県の『三春の滝桜』には心が震えました」と松本さん。その感動から、生まれ育った土地に桜の名所を築きたいという夢が芽生えたそうです。とはいえ、その夢をこうして実現させるまでには、かかる費用もそれなりに...
「妙な遊びに打ち込むよか、よかろて思て」と笑ってごまかす松本さんですが、その胸の内には古里への深い思いがあったと察します。そして今年もまた「松本桜」には、多くの蕾が膨らんでいます。
50代の頃から年に2〜3回ほど、妻の昭子さんや友人たちと海外旅行を楽しんできたという松本さん。こ

10年かけて夢叶えた上陳の「松本桜」

鳥居の向こうに広がる古里の風景

鳥居の向こうに広がる古里の風景



上/霜宮神社の高台から眺めた上陳・下陳の風景。家々の屋根瓦が日差しを受けてキラキラと輝きます
下/霜宮神社の鳥居の向こうに広がる景色
左/霜宮神社について教えてくれた宮本さんは、郷土の偉人・志賀哲太郎氏の顕彰会の一人。広くその偉業を伝えています

わがまち散歩



vol.46

かみじん しもじん
上陳・下陳
きたむき
北向編



すっかり春、これから新しい環境に身を置く人たちも多く、希望に湧く季節の到来です。
今回の散歩は3度目となる上陳・下陳・北向地区。ご長寿の「あの方」と笑顔でのうれしい再会もありました。

ら、はだして周囲を回ります。
「11月には、地域の人たちが集まりしめ縄作りが行われます」と教えてくれたのは、宮本睦土さんです。
まだ新しさが残る霜宮神社の鳥居は熊本地震により崩壊しましたが、平成29(2017)年に再建。そのことを心から喜んだ人たちの中に廣田律男さんいました。
「鳥居が再建されてすぐの8年前の夕刻、鳥居の向こうに、真つすぐに太陽が沈んでいく光景に遭遇し、慌ててカメラを持ち出しました」と廣田さんが見せてくれた一枚の写真には、平野を照らすように神々しい夕日の一本道が現れていました。
「その美しさに、ここに暮らしながらどうして今まで気づかなかつたんだらうと後悔しました」と廣田さん。季節によって太陽の沈む位置は

まきストーブのある暮らしに憧れて

上陳と下陳地区の境界を示す、東西に流れる小さな水路。その水路脇にある自宅の庭先でまき割り汗を流していたのは、小路正伸さん。この家を境に南側に広がるのが下陳地区です。
小路家の庭に積まれてあるオブジエのようなまき。まきストーブのあるすてきな生活に憧れます。
「温まっていきなっせ」と正伸さんが声をかけてくれました。それでは、とお言葉に甘えることに。と、玄関の入り口脇につるしてある大きな鐘を発見。「家の中に入るときは、その鐘ば鳴らしてね」と正伸さんに促されて素直に従い、鐘のひもを左右に力いっぱい揺ると突如、警報音のような大きな鐘の音が響き渡って、あたふた、あたふた...
「久しぶりに1人つかまつたね」と妻の裕子さんは手をたたいて大うけ。



上/まき割りに汗を流していた小路さん。左/まきストーブの前で今にも寝入りそうなハナちゃん



小路さんのリビングにあるまきストーブ。部屋中ポカポカです

この鐘は船舶用の号鐘で、正伸さんのウイットに富んだ遊びに、まままとやられてしまったようです。
まきストーブの温もりが心地良いリビングでしばし裕子さんと談笑していると、今年22歳になるハチワレ猫のハナちゃんがまきストーブの前でウトウト。そんな穏やかなひとときに、すっかり癒やされました。



小路さんの玄関先につるしてある号鐘。この鐘を大きく鳴らしてしまった筆者...



グラウンドゴルフが共通の趣味という廣田さん夫婦



上/廣田さんが撮影した、霜宮神社の鳥居の向こうに沈む太陽の風景
下/見晴らしの良い廣田さんの自宅横の畑にはいろんな野菜が育っています

